植物防疫ニュース（速報Ｎｏ．２）　　平成２５年４月１９日
栃木県農業環境指導センター

適期にナシ黒星病の重点防除を実施しましょう。

平成２４年はナシ黒星病の発生が多い状況でした（図１）。そのため、本年は、本病の第一次伝染源（罹病落葉、感染したりん片）が多いと考えられます。特に、昨年の新梢葉に秋型病斑が多かった園では発生に注意が必要です。

りん片脱落期から開花期前後は本病の最重要防除時期です。本年の開花は例年よりも早いことから、なしの生育状況にあわせて早めに重点防除を実施しましょう。

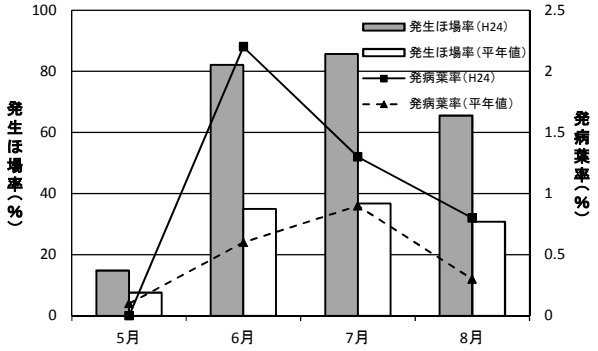

図１　平成 24 年のナシ黒星病発生状況

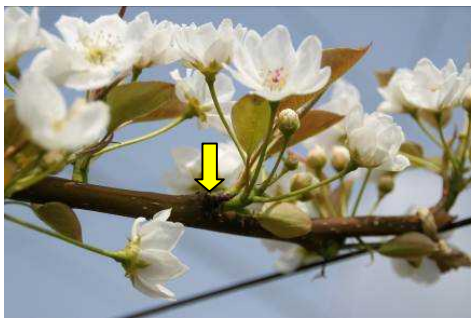

図２　芽基部病斑（矢印）
※下段は拡大図

【防除対策】

（１）芽基部病斑（図２）は伝染源となるので、見つけ次第剪除してほ場外に持ち出し、埋却等により適切に処分する。

（２）下記の薬剤を散布する。

（平成２５年４月１８日現在の登録）

	薬剤名	希釈倍数	使用時期／使用回数	成分／成分の総使用回数
※1 DMI剤	オンリーワンフロアブル	2,000～4,000倍	収穫前日まで／３回以内	テブコナゾール／３回以内
	アンビルフロアブル	1,000～2,000倍	収穫７日前まで／３回以内	ヘキサコナゾール／３回以内
	サンリット水和剤	2,000～4,000倍	収穫７日前まで／３回以内	シメコナゾール／３回以内
	スコア顆粒水和剤	4,000倍	収穫１４日前まで／３回以内	ジフェノコナゾール／３回以内
その他	アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで／３回以内	ペンチオピラド／３回以内
	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000～4,000倍	収穫前日まで／３回以内	ピリベンカルブ／３回以内
	ベルクートフロアブル	1,500倍	収穫１４日前まで／５回以内	イミノクタジン／５回以内※2
	アントラコール顆粒水和剤	500倍	収穫４５日前まで／４回以内	プロピネブ／４回以内※3

※1　DMI剤は耐性菌発生防止のため、連用・多用はしない（合わせて年２回以内の使用とする）

※2　塗布剤は２回以内、液剤は１回以内

※3　休眠期は１回以内

詳しくは、農業環境指導センター（http://www.jppn.ne.jp/tochigi/ ）までお問合せ下さい。

（℡　０２８－６２６－３０８６）